



Kotohomu.Ilc Repository

物語世界を「生かす」ための
時代考証ライブラリー
【実践ツール編】



02



馬車の“窓ガラス”から創る、世界設定速習シート

～あなたの物語に“リアリティ”という重力を与える～





歴史は、物語の鍵が眠る宝の山です。

その扉を開く最初の鍵は、「この世界の人々は何で移動しているのだろう？」という、素朴な問いかもしれません。

馬車一台をとっても、その構造が物語の解像度を大きく左右します。

車輪は木製か、鉄で補強されているか。

サスペンションはあるか。

そして、窓に高価なガラスがはまっているか、いないか——。

それだけで、その世界の技術レベル、富の偏在、そして時代背景までが浮かび上がってきます。

このシートは、そんな「鍵となるアイテム」から逆引きする形で、あなたの創作世界にリアリティという名の“重力”を与えるための羅針盤です。

まずは最初の問いにお答えください。



あなたの物語における、人々の主な長距離移動手段はどれですか？

A. 基本は「徒歩と馬」。荷物は荷馬車で運ぶが、人が乗る立派な馬車は稀。



→ 【中世ヨーロッパ風（盛期～後期）の世界】へ（P.5へ）

B. 「箱馬車」が登場し、貴族や大商人が利用する。
ただし窓にガラスはないか、極めて高価。



→ 【近世ヨーロッパ風（絶対王政期）の世界】へ（P.6へ）

C. 「鉄道網」が敷かれ始め、蒸気機関が世界を変えている。
馬車も現役だが、主役の座を譲りつつある。



→ 【近代ヨーロッパ風（産業革命期）の世界】へ（P.7へ）

選択したアルファベットのページに進み、あなたの物語の「当たり前」を具体的にしていきましょう。





設定シートA：徒歩と馬が主役の、分断された世界 — 中世ヨーロッパ風（盛期～後期：約11～15世紀）の世界観 —

カテゴリ	特徴
社会・政治	封建制：国王の力は弱く、各地の有力諸侯（貴族）が独立した領地を支配。 農奴：人口の大半は、土地に縛られ移動の自由がない農奴（serf）。ファンタジーで描かれる自由な「平民」は極めて例外的。 カトリック教会：国王をもしのぐ絶大な権威と経済力を持つ。 旅の困難さ：街道の要所には無数の関所が設けられ、その都度通行税が必要。盗賊や傭兵崩れが跋扈し、旅は常に命がけだった。
経済・産業	荘園経済：経済の基本単位は、自給自足的な荘園。 同職ギルド：都市では、商人や手工業者が排他的な独占組合を結成。自由競争は徹底的に排除される。 多様な貨幣：領主や都市ごとに多種多様な貨幣が流通し、価値も不安定。
技術・インフラ	動力：人力、畜力、水車、風車が基本。 照明：蝋燭、松明、油脂ランプ。夜は基本的に暗闇の世界。 衛生：上下水道は未整備。糞尿は路上に捨てられることも。入浴は医学的・宗教的理由から避けられた。
軍事	騎士と城：戦いの主役は重い甲冑をまとった騎士。城は快適な王の家ではなく、防衛機能に特化した軍事要塞。 武器：剣、槍、弓が基本。強力なクロスボウも登場。
文化・生活	大学の誕生：ボローニャ大学やパリ大学など、学問の中心地として大学が生まれる。 ゴシック建築：天を目指すかのような壮麗な大聖堂が各地に建設される。 食文化：富裕層は富の象徴として高価な香辛料を大量に使用し、現代人の想像以上に風味の強い料理を食べていた。





設定シートB：箱馬車が登場する、変革の時代 — 近世ヨーロッパ風（絶対王政期：約16～18世紀）の世界観 —

カテゴリ	特徴
社会・政治	絶対王政：「朕は国家なり」の言葉に象徴されるように、国王への権力集中が進む。 官僚制度が整備され、中央集権化が進展。 身分制社会：聖職者、貴族、平民という身分制度は依然として強固。 貴族は多くの特権を保持していた。 植民地の拡大：大航海時代を経て、アメリカ大陸やアジアへ進出。 植民地からの富が国家を支える。
経済・産業	重商主義：国家が経済に積極的に介入し、貿易を通じて富を蓄積しようとする。 活版印刷：グーテンベルクの発明した活版印刷技術が普及。 聖書や書物が大量に生産され、知識の独占が崩れ始める。 株式会社の原型：東インド会社など、航海の資金を多くの投資家から集める株式会社の原型が誕生。
技術・インフラ	交通の発達：主要都市を結ぶ街道が整備され、定期運行の乗合馬車が登場。 貴族が使う箱馬車には、まだ高価なガラス窓が付き始める。 照明：オイルランプが普及し、都市の夜が少し明るくなる。 科学革命：望遠鏡や顕微鏡が発明され、ニュートンが万有引力の法則を発見するなど、世界の見方が大きく変わる。
軍事	火器の時代：マスケット銃と大砲が戦争の主役となり、騎士は過去の存在となる。 城も、大砲の攻撃に耐えるための星形要塞へと姿を変える。 常備軍：国王が直接雇用する常備軍が整備され、軍事力が国王の元に集中。
文化・生活	ルネサンスとバロック：人間中心の文化が花開くルネサンスから、豪華で劇的なバロックの時代へ。 ダ・ヴィンチやミケランジェロ、レンブラントが活躍。 新しい社交場：都市にはコーヒーハウスやサロンが生まれ、市民や知識人が集い、議論を交わす場となる。 オペラとバレエ：宮廷文化としてオペラやバレエが生まれ、発展。





設定シートC：鉄道と蒸気が主役の、光と影の時代 — 近代ヨーロッパ風（産業革命期：19世紀）の世界観 —

カテゴリ	特徴
社会・政治	国民国家：フランス革命やナポレオン戦争を経て、「王の国」から「国民の国」へ。 ナショナリズムが高まる。 議会政治：市民階級が力をつけ、選挙を通じて政治に参加する議会制が発展。 労働者階級の形成：工業都市に人口が集中し、劣悪な環境で働く労働者階級という新たな社会階層が生まれる。
経済・産業	産業革命：蒸気機関の発明が動力革命を引き起こし、工場での大量生産（工場制機械工業）が始まる。 資本主義の確立：資本家（ブルジョワジー）と労働者（プロレタリアート）という階級構造が明確になる。 世界の一体化：鉄道と蒸気船、電信が、世界中の時間と距離を劇的に縮め、グローバル経済の基礎を築く。
技術・インフラ	鉄道網：国内の主要都市が鉄道で結ばれ、人や物資の移動が爆発的に増加。 馬車は短距離交通の脇役となっていく。 ガス灯と電灯：都市の夜はガス灯で照らされ、19世紀末には電灯も発明される。 都市の衛生改善：伝染病の流行を背景に、ロンドンやパリなどで大規模な上下水道の整備が進められる。 写真の発明：現実をありのままに写し取る写真技術が生まれ、人々の世界認識に大きな影響を与える。
軍事	近代兵器の登場：射程と命中精度が飛躍的に向上した後装式ライフル銃や、機関銃が登場。 戦争の様相を一変させる。 徴兵制：国民皆兵の徴兵制が広まり、国家総力戦の時代が始まる。
文化・生活	都市文化の爛熟：百貨店、劇場、美術館、博覧会などが生まれ、大衆が享受する都市文化が花開く。 公教育の普及：国家の担い手を育成するため、初等教育を中心とした公教育制度が各国で整備される。 新しい芸術：写真の登場に影響を受け、現実を主観的に捉え直す印象派などの新しい絵画が生まれる。





あとがき

この速習シートが、あなたの物語世界に確かな骨格を与える一助となれば幸いです。整合性の取れた「当たり前」は、読者が安心して没入できる世界の土台となります。

次回予告

世界の骨格の次は、そこに生きる人々の「魂」です。

あなたの描く統治体制や文化が、なぜ生まれたのか。その背景にある価値観を深掘りします。

物語世界を「生かす」ための時代考証ライブラリー【テーマ別深掘り編】

Vol.1『統治・社会編：「RPGの王様」と「不自由な農奴」』

ご期待ください。

ことほむ合同会社（時代考証・文化観光 ナラティブバリュー・コンサルタント）

<https://kotohomu.com>

■本資料のご利用にあたって

本書の著作権は、ことほむ合同会社に帰属します。

著作権法で認められている引用の範囲を除き、弊社の許可なく、本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製、改変、販売、再配布することを固く禁じます。

本書に掲載された情報の正確性には万全を期しておりますが、その内容の完全性・正確性を保証するものではありません。

本書の情報をを用いて行う一切の行為について、弊社は何ら責任を負うものではありません。

© 2025 ことほむ合同会社

